

## 桜美林大学がコスタリカに野球部員を派遣

01



ボランティア派遣覚書署名式で期待を表明するリアン・ロドリゲス臨時代理大使



三谷高康学長(左)と覚書を交わすロドリゲス臨時代理大使(中央)、小川登志夫JICA事務局長(右)

JICAと桜美林大学(東京都)は、6月9日、JICAボランティア事業に関する覚書を締結しました。締結式にはコスタリカのリアン・ロドリゲス臨時代理大使も出席し、今回の取り組みに対する期待の意を示しました。

今回の合意に基づき、桜美林大学は、2016年2月から東京オリンピックが開催される2020年までの5年間、毎年、ボランティアとして野球部員10〜15人程度を約1カ月間コスタリカに派遣します。学生たちは、コスタリカの首都サンホセの北に位置し、国内で最も野球が盛んなサントドミンゴ市の野球協会に配属され、同国代表チームの指導、指導者への技術指導、国内における野球の普及に関する活動などに取り組む予定です。

コスタリカの野球レベルは、中米の他国に比べて必ずしも高いとは言えず、技術力の向上に加えて、野球の普及が遅れている地方部における野球の振興・普及が課題となっています。

その一方で、青少年犯罪が深刻な同国では、野球が健全な青少年の育成に果たし得る役割が注目されています。

JICAはこうした課題に取り組むため、これまで同国に対し、累計で15人の青年海外協力隊を派遣し、礼儀や規律を重んじる日本式野球の指導を通じた青少年の育成や野球技術の向上に貢献してきました。

また、桜美林大学は、これまでに80人の青年海外協力隊を開発途上国に派遣するなど、国際交流・国際貢献活動を積極的に推進しています。

本連携は、両者のこうした取り組みを一層強化するだけでなく、安倍総理が東京オリンピック招致に際して表明した、2020年までに、100を超す国々で、1000万人の人々にスポーツの喜びを届けるプログラム「スポーツ・フォー・トゥモロー」にも資するものです。

## ネパール大地震の復興支援調査団を派遣

02



首都近郊の被災地を視察する田中理事長

JICAは5月20日から、ネパール大地震の復興支援に向けた調査団を派遣し、ネパールの具体的な復興計画の方向性や日本の支援の可能性を検討しています。

地震発生から1カ月後の5月25日には、ネパール政府と共催で「ネパールの Build Back Better」(より良い復興)に向けたセミナーを首都カトマンズで実施。開会の挨拶で田中明彦理事長は、緊急援助から復旧・復興に入る時期に、より災害に強靱な国を構築する復興方針策定の必要性を強調し、日本の防災行政、災害研究の専門家が日本の震災からの復旧・復興の知見を提供しました。

JICAは今後も地震発生直後以降のシームレスな(切れ目のない)協力を継続するべく、Build Back Betterを含む「仙台防災枠組」(3月の第3回国連防災世界会議で採択)の具体化を通じて、ネパールの復興を引き続き支援していきます。

## 田中理事長がトルコを訪問

03



調印式典(左から横井大使、ギュルジュエ大臣、田中理事長)

田中明彦JICA理事長は5月14日から16日にかけてトルコを訪問し、円借款「地方自治体インフラ改善事業」の交換公文および貸付契約の調印式典に参加したほか、イドリス・ギュルジュエ環境都市整備大臣をはじめとする要人との会談や、JICA事業の視察などを行いました。

2011年から続くシリア内戦で、多くのシリア人が流入したトルコの地方自治体では、上下水道や廃棄物処理などの行政サービスレベルが低下しており、インフラ整備計画の前倒しを余儀なくされています。「地方自治体インフラ改善事業」は、政府系金融機関を通じて地方自治体への長期資金供与を通じて、インフラの改善を目指しています。

式典に先立って行われたギュルジュエ環境都市整備大臣との会談で、大臣は円借款の供与に対し感謝の意を表すとともに、本事業はトルコと日本の友情の証であり記憶に深く残ると述べました。